

# 海南高等学校

実施日時	令和3年11月5日（金）
参加者	生徒545名、教職員40名、計585名
実施内容	避難訓練、防災学習、マイトイレ作り 等

## ねらい

- 1 近い将来起こると危惧されている南海トラフ巨大地震等の自然災害に備え、防災・減災に関する知識や技術を身につけ、防災への意識を高める。
- 2 地域の防災を担うリーダーを育成する。

## 主なプログラム

- 1 避難訓練（全校生徒）
- 2 防災学習Ⅰ（1・2学年）  
南海トラフ地震動画視聴
- 3 防災学習Ⅱ  
（1学年）防災クイズQ&A  
マイトイレ作り  
（2学年）討論会
- 4 防災学習Ⅲ（1・2学年）  
濱口悟陵偉業顕彰シンポジウム視聴

## 概要

### 1 避難訓練

HR教室での授業中に緊急地震速報が発表されたという想定のもと、全校生徒がシェイクアウト訓練を実施し、授業担当者の誘導により今回の避難場所であるグラウンドへ避難した。全員の避難完了を確認した後、海南市消防本部職員が訓練についての講評を行った。



### 2 防災学習Ⅰ（1・2学年）

各HR教室において南海トラフ巨大地震シミュレーション動画を視聴した。巨大地震が発生するメカニズムや地震により想定される人的・建物被害や津波被害、また普段から家庭でできる減災対策について学習した。



### 3 防災学習Ⅱ

1学年は、PPのスライドショーを用いて生徒自身が防災クイズQ&Aを実施し、グループで協議しながら回答した。クイズのあと新聞紙を用いたマイトイレ作りを行った。

2学年は、「災害時の高校生の役割と責任」について討論を行った。短い時間のなか多くの意見が出され、地域への社会貢献を意識することができた。討論を終えたあと普段からできること、災害発生時、発生後にできることについて意見が集約された。





#### 4 防災学習Ⅲ（1・2学年）

濱口悟陵偉業顕彰シンポジウムにおける県立耐久高等学校による事例発表1を視聴した。

#### 参加者感想文

- ・動画を見たとき、太平洋側では広範囲に、しかも東日本大震災よりも大きな災害が出ると予想されていることに驚いた。
- ・少しでも被害を軽減するために、私も家の家具を固定したり何日か分の食糧を備蓄しなければと危機感をもった。
- ・南海トラフ巨大地震のシミュレーション動画を見て改めて地震、津波の恐ろしさを学んだ。
- ・動画を見て、津波が来る気配がまだなくてもすぐに山へ避難しなければいけないと改めて思った。
- ・南海トラフ巨大地震はいつきてもおかしくない状態で、災害前、災害時、災害後に私たちは何をすべきかを考えることができた。
- ・私たち高校生は自分の身だけではなく、高齢者の方や子供たちを守る必要があると感じた。また、日頃から地域の方々と交流を深めておくことで、災害時の避難もスムーズに進むのではないかと感じた。
- ・防災クイズでは15問中10問正解することができた。知らない知識もあり、とても勉強になった。
- ・マイトイレ作りは思ったよりも簡単で実用的でいいなと思った。
- ・マイトイレ作りでは新聞紙ということに驚いたが、本当に緊急の時は仕方ないと思った。
- ・広川町には稲むらの火の大きな堤防があり、濱口悟陵の歴史が古くから受け継がれていることがわかった。

・「津波は自然現象、逃げないのは社会現象」という言葉があった。私たちは人の意見に流されて、周りが逃げないなら自分も逃げないと判断することが多く、このままでは南海トラフで大きな被害に遭ってしまうと感じた。

・今日の発表にもあったように濱口悟陵は、突如起こった地震に冷静に対応し、稲むらに火をつけ避難を誘導することにより多くの村人の命を守った。この偉業を伝え続けるとともに、私たちのこれからは活かしていく必要があると改めて感じた。

#### 成果と課題

##### 【成果】

- ・今年度も新型コロナウイルス感染症の影響があり、防災スクールの実施内容を検討した。2年前に実施した救命救急、地震体験や身を守る方法等の体験的な講習はできなかったが、内容を検討しながら実施できたのはひとつの成果である。
- ・1年生では、ボランティア委員が中心となりPPを用いた防災クイズを実施し、減災のための具体的な方法を知ることができた。また、マイトイレ作りで防災意識の向上が見られた。
- ・2年生では、災害発生時や発生後に高校生ができることについて意見交流が行われ、防災意識を向上することができた。
- ・避難訓練では、慌てることなく避難場所へ移動した。

##### 【課題】

- ・避難訓練では、生徒からはあまり緊張感が感じられなかったため、少し時間がかかってしまった。来年度に向けて、事前指導を徹底させる必要がある。
- ・巨大地震の発生により大きな津波の発生が予想されることから、校舎の上層階や海南市民体育館への避難訓練を計画する必要がある。
- ・コロナの状況が落ち着けば、救命救急や災害救護、起震車による地震体験、避難所運営など実技体験的な講習を計画・実施することが課題である。